

Course number		U-LAS00 10001 LJ34									
Course title (and course title in English)		哲学Ⅰ Philosophy I		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer,UCHIDA HIROAKI					
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Philosophy(Foundations)					
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A		Number of credits		2	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters		2024・First semester	
Days and periods		Wed.4		Target year		All students		Eligible students		For all majors	
[Overview and purpose of the course]											
<p>本講義では西洋哲学において使用される基本的概念や主要な学説を学ぶことによって、哲学的なものの見方や考え方ができるようになることを目標とする。</p> <p>みずからの問題意識を抜きにして哲学的に考えることはできないが、過去の哲学者の思想を学ぶことなしには、哲学的な思考は身につけることができない。そこで、本講義では哲学史の観点から、古代からカント以前の代表的な哲学者の思想を学んでいく。</p>											
[Course objectives]											
哲学で使用される主要な概念を理解することにより、哲学的な発想ができるようになる。											
[Course schedule and contents)]											
<p>以下の内容について1～2週で講義を行うが、評価項目にある試験に関してはフィードバックとして解説を行う。</p> <p>・哲学とは何か さまざまな哲学者の哲学に関する定義を参考にしながら、哲学の基本的性格を理解する。また、「存在論」「認識論」「論理学」「倫理学」など、哲学にはさまざまな部門があることを学び、それぞれの関係や哲学全体のなかでの位置づけについても理解する。</p> <p>・ソクラテス以前 西洋哲学の始まりであるとされる古代ギリシアの自然哲学者たちの思想について代表的なものを学ぶ。</p> <p>・ソクラテス 「無知の知」の意味を理解したのち、ソクラテスが求めた「善く生きること」について考える。</p> <p>・プラトン 「イデア論」を中心に学ぶが、「魂の三分説と四元徳」とそれに基づく「国家論」などの主要学説についても学ぶ。</p> <p>・アリストテレス プラトンのイデア論に対する批判を「形相と質料」「可能態と現実態」などの観点から見ていくが、「実体」論やそれと密接に関わる「カテゴリー」論などについても学ぶ。</p>											
-----Continue to 哲学Ⅰ(2)-----											

哲学Ⅰ(2)

・中世哲学

普遍は存在するかを巡って行われる「普遍論争」について学び、普遍と個物の在り方について考える。また、神に関する存在証明についても学ぶ。

・デカルト

「方法的懐疑」や「我思う故に我あり」などの基本的な学説を押さえたのち、デカルトの「実体論とそこから生じる「物心二元論」の問題について考える。

・スピノザとライプニッツ

スピノザに関しては「神即自然」や「自己原因としての神」などの基本的な主張について学ぶ。ライプニッツに関しては、「モナド論」や「予定調和」について学ぶ。

・ロック

「生得観念の否定」という基本的主張を押さえたのち、「感覚と反省」「単純観念と複合観念」「第一性質と第二性質」などロックの観念に関する基本的な考え方について学ぶ。

第15回：期末試験

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

15週目に実施する期末試験で成績評価を行う。

なお、期末試験は【参照物不可】で実施する。

[Textbooks]

Not used

講義で使用する資料は、その都度、コピーを配布する。

[References, etc.]

(References, etc.)

岩崎武雄『西洋哲学史』（有斐閣）

各自で予習・復習するために、有益な文献については、適宜、講義中に指示する。

[Study outside of class (preparation and review)]

【予習】については授業中に指示するが、最低限の予習として各哲学者の生涯や時代背景について調べておくこと。

【復習】としては配布物・ノートを見返し、講義で扱った著作を適宜各自で読み、理解を深めること。

[Other information (office hours, etc.)]

講義中の私語は【厳禁】。真摯な態度で講義に臨んで欲しい。

受講希望者多数の場合は、教室収容人数に応じて、最初の講義の際、受講者を制限することがある。